

日本対がん協会賞 個人の部 受賞記念

## 2021年度日本対がん協会賞「個人の部」を受賞して



猿木 信裕 JACR理事長

群馬県衛生環境研究所

2021年9月8日、「がん征圧全国大会宮崎大会」で、これまでのがん登録への貢献が評価され、日本対がん協会会長の垣添忠生先生から、2021年度日本対がん協会賞(個人の部)を頂きました。COVID-19の影響でWebによる表彰式参加となりましたが、これも全国がんセンター協議会(全がん協)加盟施設の院内がん登録実務者はじめ、全国のがん登録関係者の皆様のおかげと感謝しています。

## 1) がん登録との出会いと生存率公表

私のがん登録に本格的に関わるようになったのは、2004年4月、厚労省がん研究助成金による全がん協の「院内がん登録研究班」の主任研究者に就任したことから始まりました。この頃、ネット上で生存率のランキング報道が盛んになりつつあり、このままでは生存率報道が混乱すると思い、2004年7月、「地域がん診療連携拠点病院に関する意見交換会」に出席した際に、厚労省に生存率公表基準の作成をお願いしました。すると、基準はがん登録の研究班である「猿木班」で作成するようにということで、「全がん協加盟施設におけるがん患者生存率公表にあたっての指針」を作成して公開しました(<http://www.gunma-cc.jp/sarukihan/sisin.html>)。

生存率の見える化により患者さんが主治医と相談する際の資料として使うだけでなく、各施設の診療体制の見直しが始まり、結果として患者さんに資するのではないかと思い、全がん協理事会・総会で生存率公表を提案しました。生存率公表には慎重な意見もありましたが、2006年の全がん協総会で認めていただき、2007年10月部位別施設別5年生存率をHPに公開することができました。

2007年には拠点病院の院内がん登録が義務化され、全がん協の取り組みは、現在のがん診療連携拠点病院の生存率公表に繋がっています。2016年には全がん協として10年生存率を公表することができました。多くの全がん協関係者に支えられ、研究班活動で出会った仲間が、全国で活躍しています。

## 2) 群馬県がん登録の精度向上

群馬県のがん登録の精度向上を目指し、2005年に「群馬県地域がん登録連絡協議会」が設置されました。2010年に群馬県がん対策推進条例が成立し、群馬県では住基ネットによる予後調査の道が開かれ、地域がん登録の先進県に迫りつため、群馬県のデータが5大陸のがん罹患(CI5)に掲載されることを目標に、がん登録の精度向上に取り組んでいます。↗

## 3) がん登録の法制化

2006年6月のがん対策基本法が成立しましたが、がん登録は参議院の附帯決議に掲載されただけでした。その後、患者会の皆様の応援もあり、2013年12月、念願であった「がん登録等の推進に関する法律」が成立し、2016年1月から全国がん登録が開始されています。わが国で地域がん登録が開始されて半世紀、2019年1月に全国がん登録による初の集計値が公開され、2016年1年間のがん罹患数は延べ99万5,132人でした。ついにがん登録の悉皆性が実現したのです。

## 4) 日本がん登録協議会(JACR)理事長

私は2017年4月にJACR理事長に就任し、院内がん登録、都道府県がん登録の連携に努めています。2017年6月には患者さん目線の情報発信を目指し、全国がん患者団体連合会(天野慎介理事長)と連携協定を締結し、J-CIP活動を開始しました。

院内がん登録、全国がん登録の整備により、信頼されるがん統計が算定できるようになりました。がん登録推進法の目的は「がん対策の一層の充実に資すること」です。現在、法改正に向けた検討が始まっています。日本はWHOから健康達成度世界一と評価されていますが、高齢化、少子化、医療費の増大等、様々な課題に直面しています。これからは、個人情報に配慮しながら、「がん対策の羅針盤」であるがん登録から得られたデータの利活用を進め、がん対策に貢献するデータ解析や、がん患者さんにわかりやすい情報発信が進むことを願っています。

## 当会への寄付

活動を支援して下さる方を募集します

常時  
受付中